

サイバーレジリエンスの新たな KPI

従来のリカバリ指標は、スピードとデータ損失を測定するものでした。現代の脅威には、クリーンな復旧と許容可能な中断時間を測定する KPI が必要です。

なぜ従来の KPI では不十分なのか？

レガシーな KPI

RPO

目標復旧
時点

どの程度のデータ損失を許容できるか。

RTO

目標復旧
時間

どの程度の速さでシステムを復元させる必要があるか。

迅速に復旧したとしても、感染した状態のままでの復元であれば、結果として失敗となります。

これらの KPI は、ハードウェアの故障や自然災害による停止を想定して作成されました。システムの完全性を損なう攻撃は考慮されていません。



現在の KPI - MTCR および MTD

KPI	MTCR	MTD
フルネーム	クリーンリカバリまでの平均時間	最大許容中断時間
定義	検証済のマルウェアのない環境への復旧に要する時間	ビジネスへの影響が許容できないレベルに達する前にオフラインまたは機能低下状態を維持できる最長時間
なぜ重要なのか	復元されたシステムが改ざんされておらず、安全に利用できることを保証	復旧に関する判断とビジネスへの影響を合致させる

レガシーモデル vs レジリエンスモデル

レガシーモデル

RTO

RPO

レジリエンスモデル

RTO

RPO

MTCR

MTD



現在、復旧にはスピードと信頼性の両方が求められます。

ダウンタイムは生産性を破壊します

23 日間

ランサムウェアによる平均ダウンタイム¹

76%

インシデント発生後に大幅な生産性低下を報告した組織の割合²

30%

ITの中断への対応に毎年費やされる時間の割合³

1.5～3 時間

ツールの乱立により日々失われる生産性⁴

ダウンタイムと断片化された製品スタックは、技術者の効率とビジネスの生産性を直接的に低下させます。

なぜ MTCR が技術者の効率を高めるのか

クリーンな復旧は、技術者の作業負担を軽減：

- 再感染のサイクルが発生しない
- 復元の繰り返しが発生しない
- ツール間の切り替えに費やす時間が減る
- 調査とトリアージが短縮される
- 安定稼働への復帰時間を短縮できる
- 技術者一人当たりのエンドポイント対応能力を向上できる



MTCR を削減することで、すべての顧客と環境において技術者のアウトプットが増大します。

統合プラットフォームが MTCR と MTD をいかに引き下げるか

復旧時間および中断を短縮する機能：



AI 支援によるランサムウェア防御



AI を活用したバックアップ検証



隔離環境での復旧テスト



保護、検知、復旧が統合されたワークフロー

アーキテクチャが統合されることで、クリーンな復旧が加速し、業務中断の期間が短縮されます。

サイバーレジリエンスは単なる保護にとどまりません。

よりクリーンな復旧 → リワークの削減

ダウンタイムの短縮 → 生産性の向上

運用の統合 → MTCR の高速化

継続性の向上 → 顧客への成果の強化

アクロニスが、脅威の予測、攻撃への耐性、迅速な復旧、そして将来への適応をどのように支援できるかをご確認ください

詳細はこちら

お問い合わせ

